

戦評用紙

大会名: 高松宮記念杯第49回全日本実業団選手権大会

対戦チーム Honda 対 大崎電気

会場 神奈川県武山運動公園 県立武蔵野球場 平成 20年 8月 3日

戦評 前半開始1分大崎エース宮崎のロングヒットにて先制。1-2-3ティップスの堅い守備を数回大崎が、内田、猪俣、太田、前田らの得点により、6対0とリードし、優位に試合を展開する。前半9分Hondaがムアツ外後、横地、鶴見らの得点で追撃するも、大崎GK浦和の再三の好セーブにより反撃を許さない。Hondaは、大崎の1-2-3ティップスを攻めぬ。1イニングもバントプレーが少く、大崎は、守りからの二次速攻や0-1バントからのロングヒット、ホストヒットで次々と得点を重ねる。20分短所、大崎秋山から内田へと渡るスクアラーに成功、29分終了直前、宮崎から永島のスクアラーも成功し、18対8と一方的に展開で前半終了。後半開始5分ほど、Hondaサバ、ホスト攻撃12対、大崎の7人のストライクからスクアラーの反撃で一進一退の展開に。8分大崎永島退場の2分間Hondaバントヒット12対8を加えるが、大崎にストライクを取返し点差は縮小した。Honda後半初出場GK四方が一塁、レフトを止めるが、スピードに富んだ多彩な攻撃力をみせる大崎が点差を広げていく。Hondaは、大崎の1-2-3ティップスを前にと

(→ 938)

シゲルボートからフジボートへ移籍するセトボート
を試みず、なかなか崩せてはい。35対24で、
11点差をつけ、大崎が勝利した。